

令和元年度第1回
与論町役場旧庁舎跡地利用検討委員会



令和元年11月8日（金）18：00
与論町役場仮庁舎2階会議室

会次第

1. 委嘱状交付
2. 開会あいさつ（副町長）
3. 与論町役場旧庁舎跡地利用に関するアンケート結果報告
 - これまでの経緯……………4
 - 一般町民（18歳以上）アンケート結果
 - 問1. あなた自身のことについて……………6
 - 問2. 役場旧庁舎周辺地区について……………7
 - 問3. 役場跡地の活用について
 - ① 役場跡地の活用の方法は、どのようなものが望ましいとお考えか…8
 - ② どのような施設や用途を期待しているか（全体集計）……………8
（年齢別集計）……………9
 - ③ 今後、どのような方法で活用すべきと考えるか……………12
 - ④ 活用の際、特にどのようなことに留意すべきと考えるか……………12
 - 高校生・中学生向けアンケート結果
 - 高校生アンケート結果……………16
 - 中学生アンケート結果……………17
 - 与論町役場旧庁舎跡地利用に関するアンケート結果まとめ……………18
4. 旧庁舎跡地並びに本町の現状について……………19

3. これまでの経緯

現在の与論町役場本庁舎（以後「旧役場庁舎」という。）は昭和42年（1967年）に1階及び2階の鉄筋コンクリート造部分が竣工し、その後、昭和56年（1981年）に3階の鉄骨部分が増築され現在の姿となりました。建設から50年余りが経過し、建物の老朽化、庁舎内の狭あい化やバリアフリーへの対応不足が見られることなどから、平成26年5月に自治公民館長・各種団体長等で構成する「与論町庁舎建設検討委員会」が設置されました。また、平成26年7月に「新庁舎建設庁内検討会」を設置し、以後14回の庁舎建設検討委員会、5回の住民説明会を経て、昨年12月4日に起工式を執り行い、現在本年末の完成を目指し新庁舎の建設を行っております。

一方で旧役場庁舎跡地の活用については、平成29年7月に役場職員による意見交換会を実施、平成30年2月に与論町役場旧庁舎跡地利用検討委員会設置要綱の制定、第1回の検討委員会を開催し、その場で町民へのアンケートの実施についての提言がなされ、同年10月同委員会へアンケート案の提示、委員会内において修正後、11月15日にアンケートを実施しております。

アンケート結果については、下記のとおりです。

○ 一般町民（18歳以上）向けアンケート

配布枚数 4,158枚
回答枚数 1,186枚
回答率 28.5%

○ 高校生向けアンケート

配布枚数 135枚
回答枚数 123枚
回答率 91.1%

○ 中学生向けアンケート

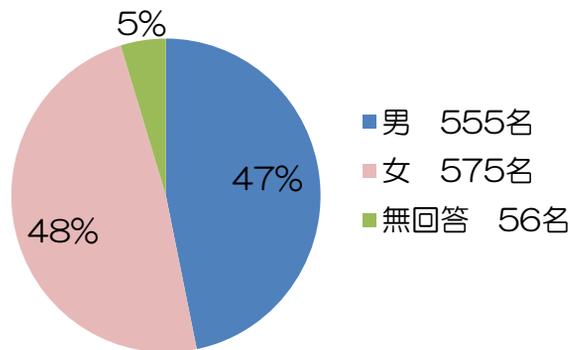
配布枚数 134枚
回答枚数 118枚
回答率 88.1%

一般町民（18歳以上）向けアンケート結果

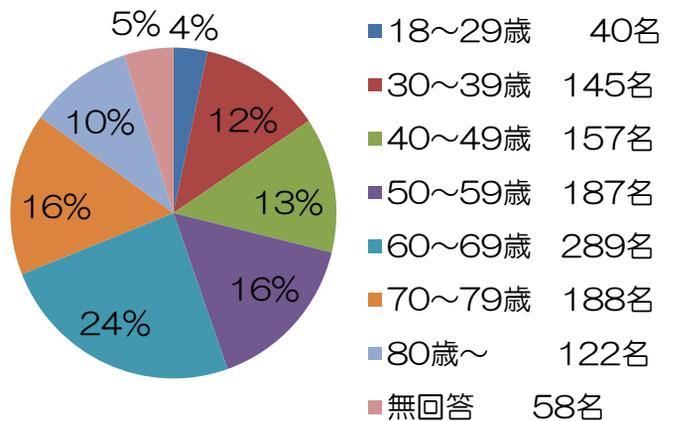
配布枚数	4,158枚
回答枚数	1,186枚
回答率	28.5%

問1. あなた自身のことについて

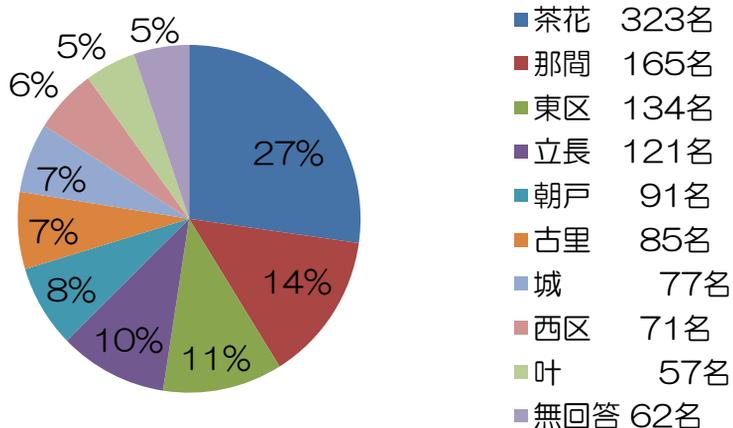
① あなたの性別は？



② あなたの年齢は？



③ あなたがお住まいの集落は？



〈問1について〉

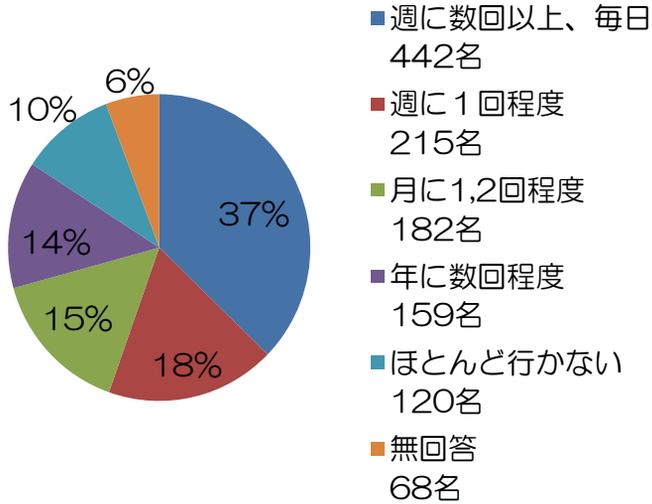
回答いただいた町民の男女比率は47%と48%でほぼ同率となっています。

また、年齢別では60～69歳の方々が24%と最も多く、次いで50～59歳、70～79歳が16%となっており、60歳未満では45%、60歳以上は55%となっています。

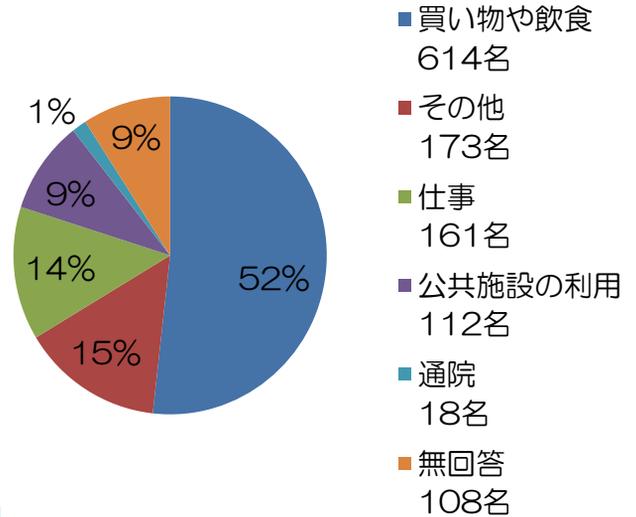
集落別では茶花集落が27%と最も多く、次いで那間集落の14%、東区集落の11%、立長集落の10%となっています。全ての集落の方々から回答をいただきました。

問2. 役場旧庁舎周辺地区について

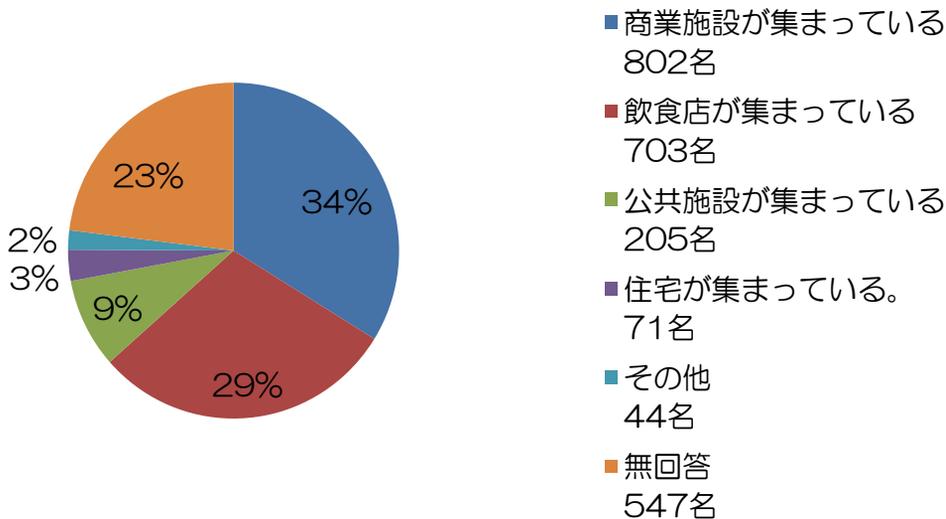
① どのくらいの頻度で訪れますか？



② 主にどのような理由で訪れますか？



③ どのようなイメージ、印象をお持ちですか？



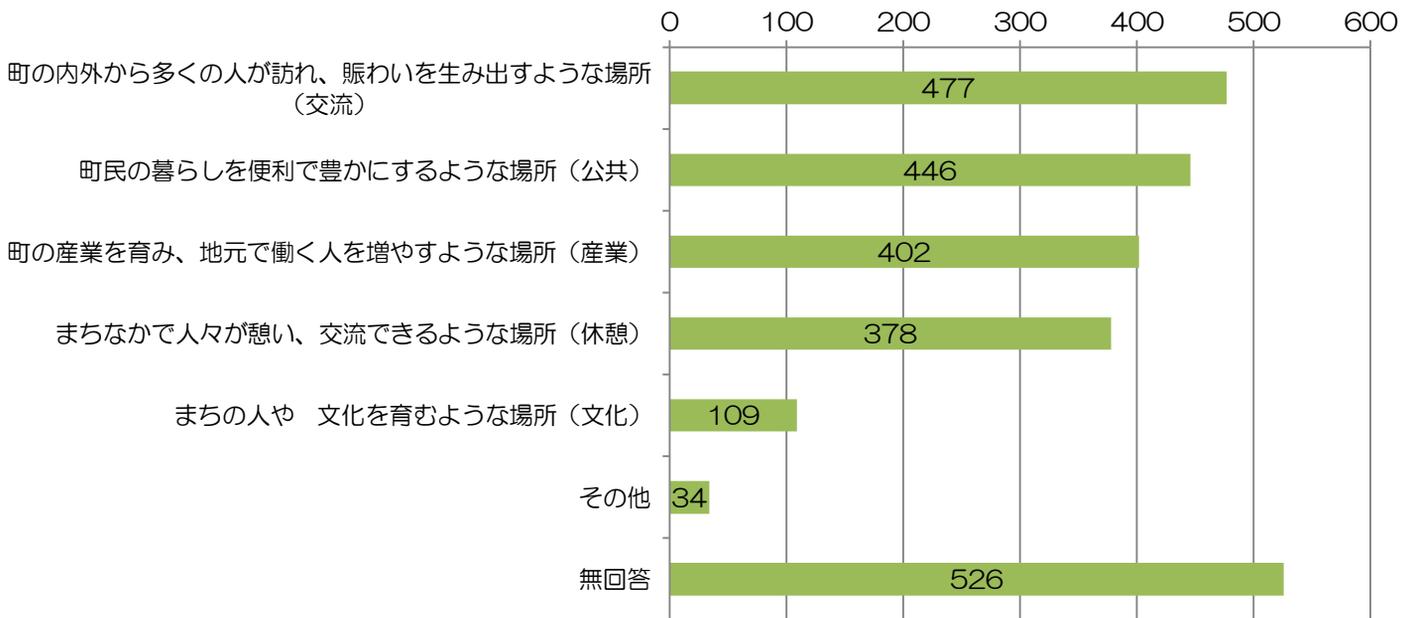
〈問2について〉

役場周辺地区を訪れる回数は、「週に数回以上、毎日」の回答が37%と最も多く、理由としては、「買い物や飲食」が52%と過半数を占めました。

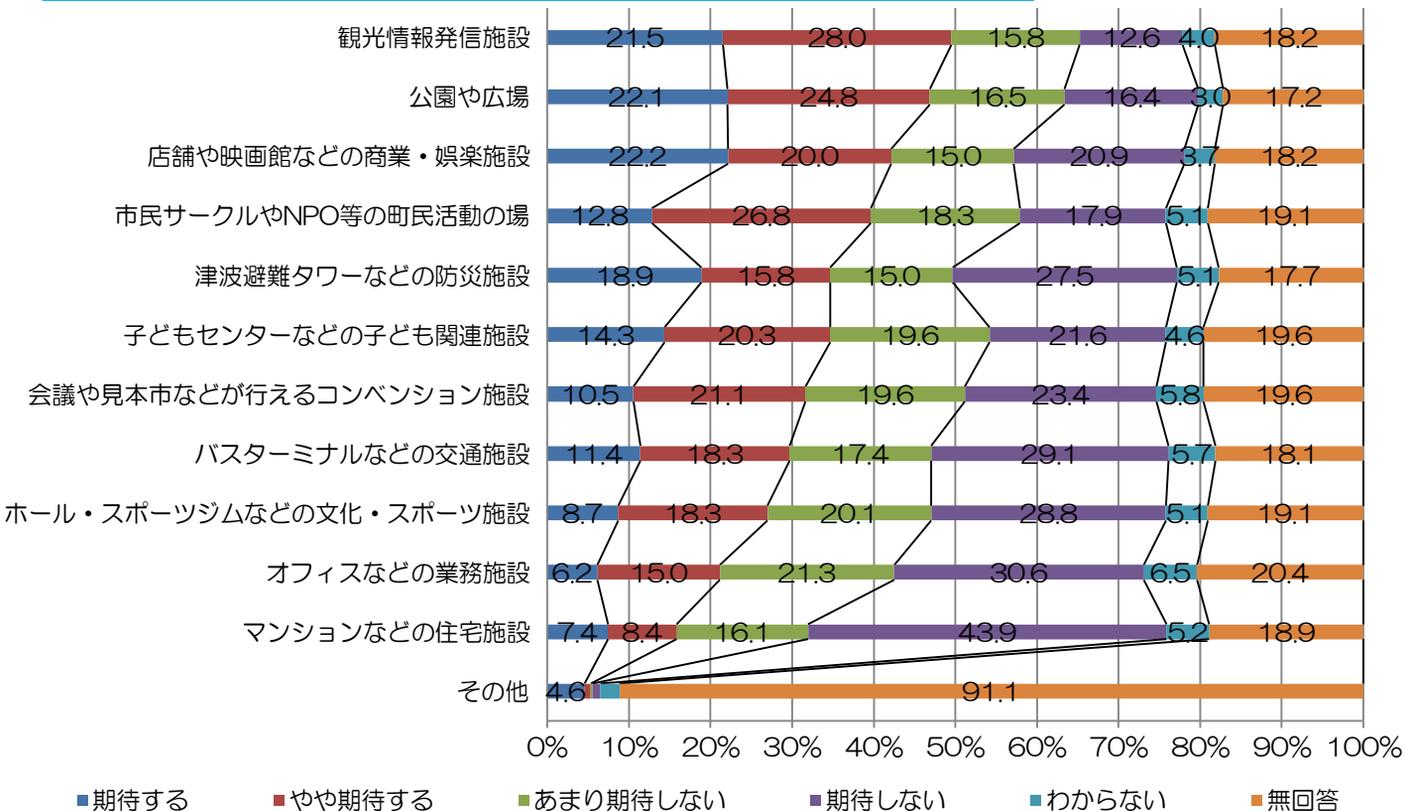
また、役場旧庁舎周辺地区のイメージ等については、商業施設や飲食店が集まっているイメージのある方々が63%を占めました。

問3. 役場跡地の活用について

① 役場跡地の活用の方法は、どのようなものが望ましいとお考えですか。次の中から2つまで○をつけてください。

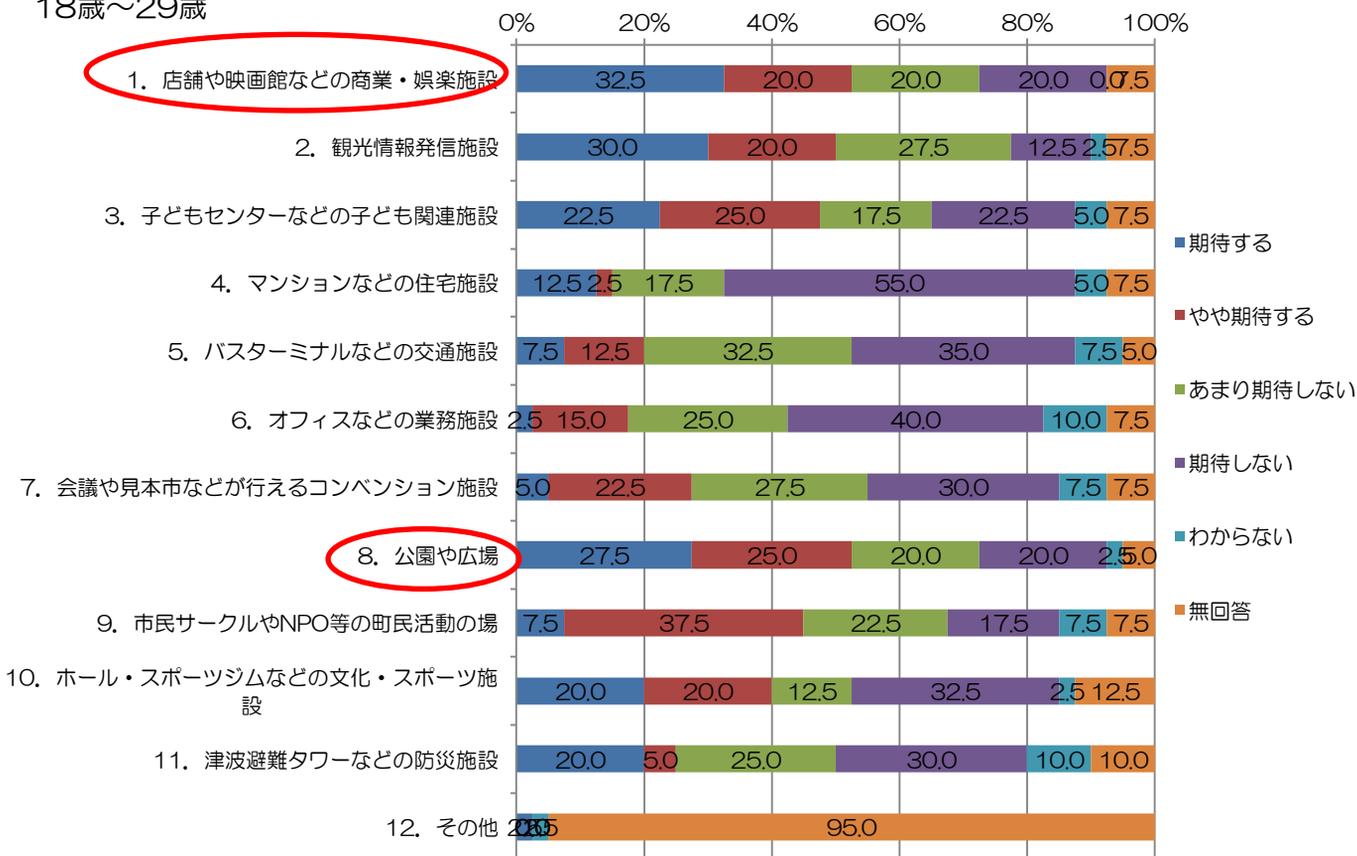


② どのような施設や用途を期待していますか？（全体集計）

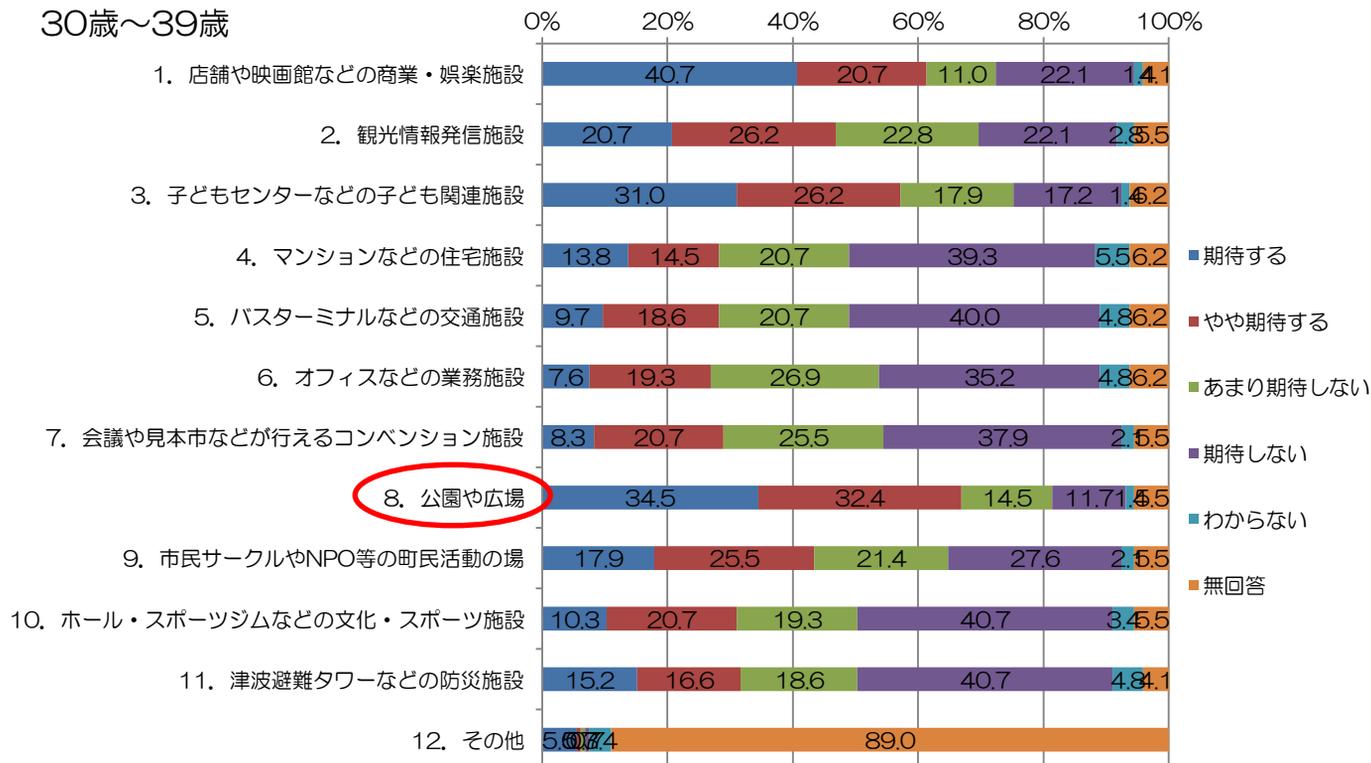


② どのような施設や用途を期待していますか？（年齢別集計）

18歳～29歳

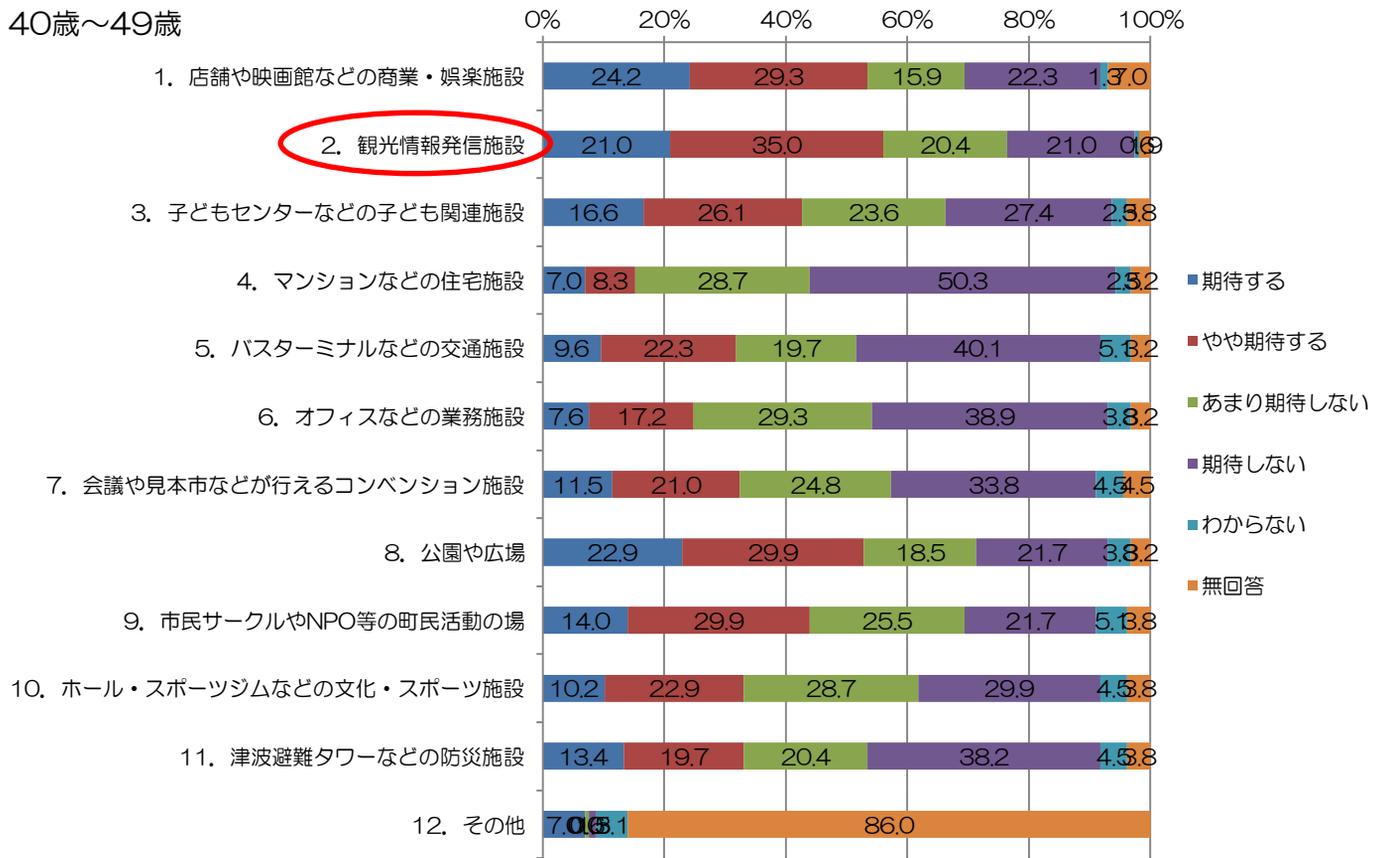


30歳～39歳

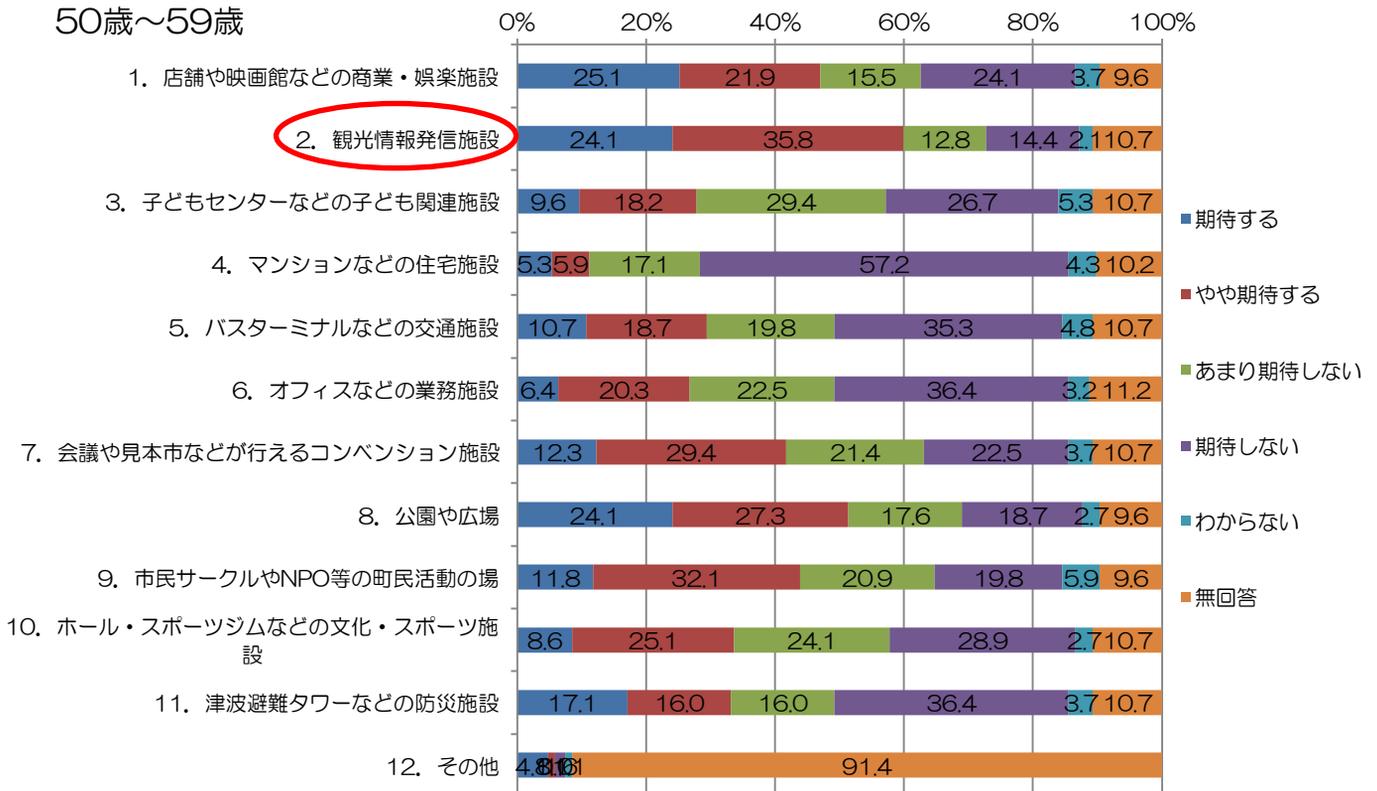


② どのような施設や用途を期待していますか？（年齢別集計）

40歳～49歳

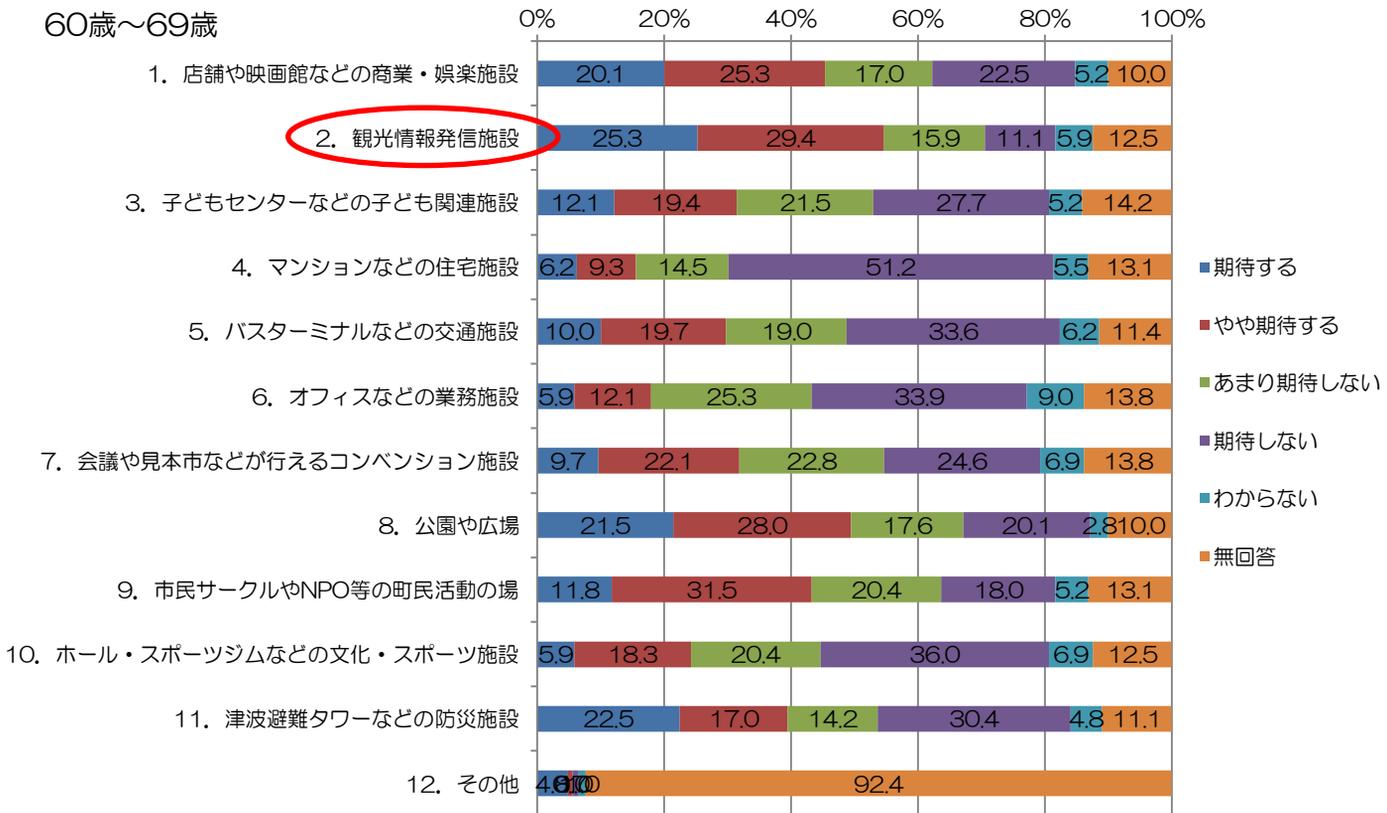


50歳～59歳

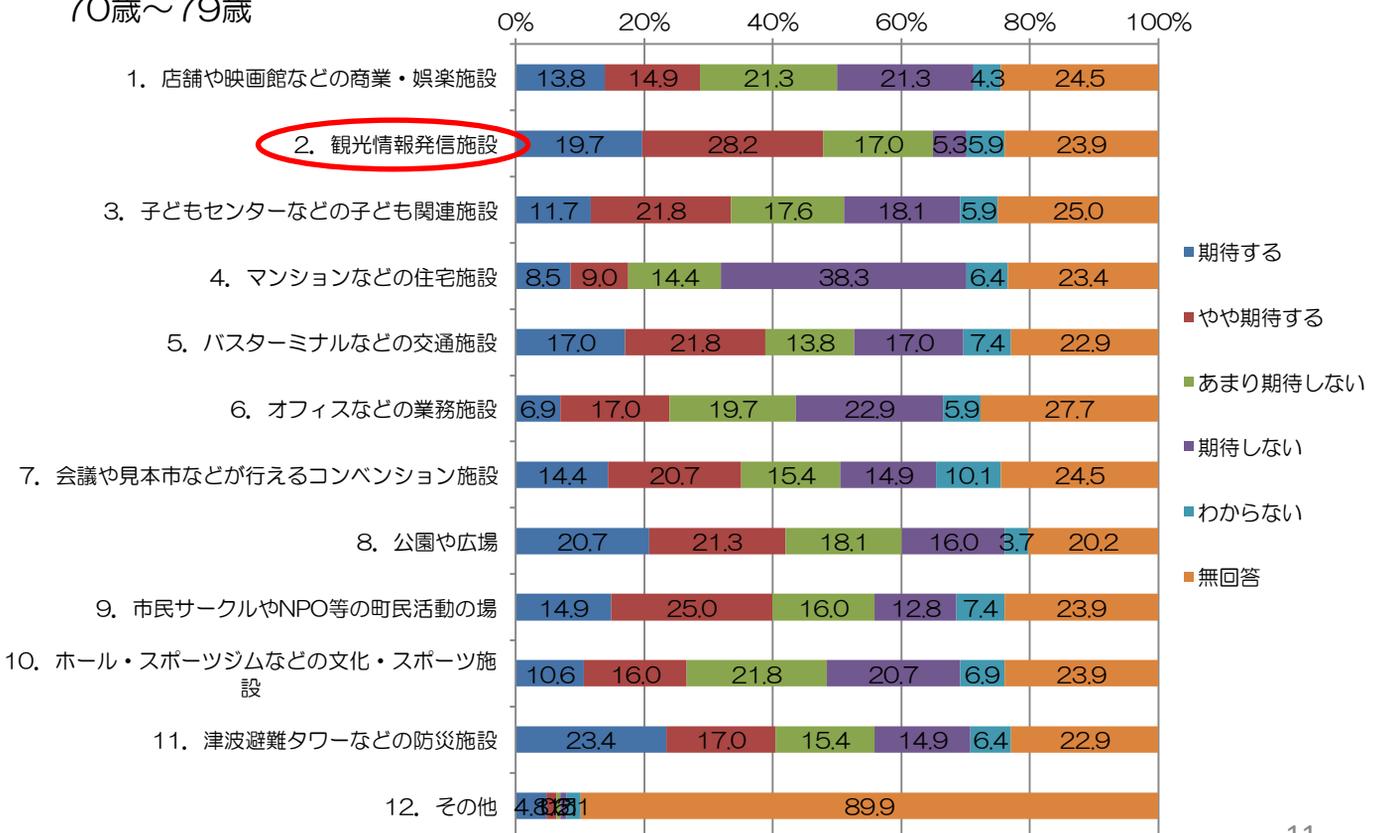


② どのような施設や用途を期待していますか？（年齢別集計）

60歳～69歳

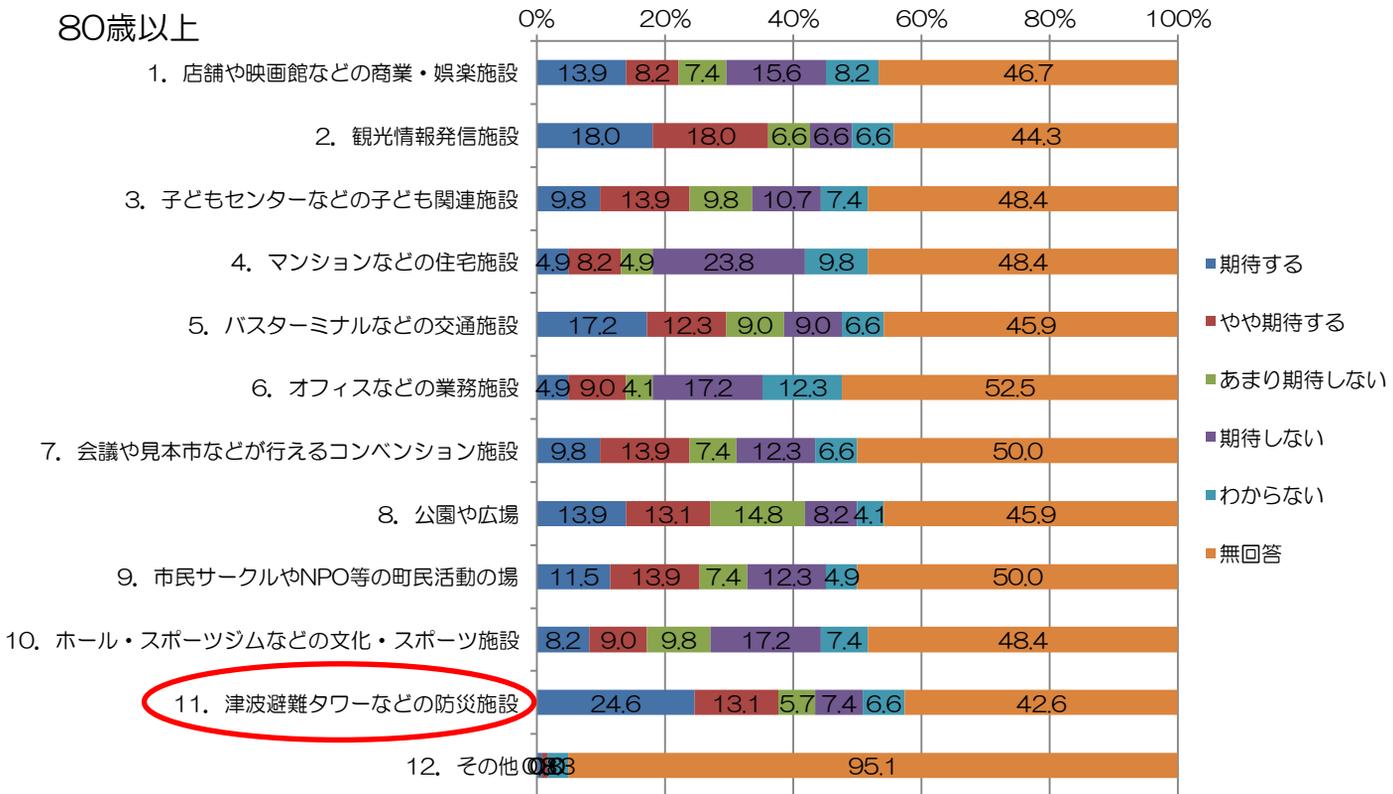


70歳～79歳

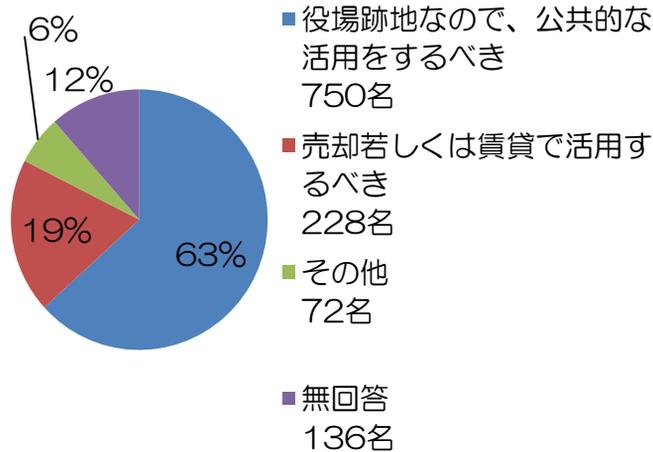


② どのような施設や用途を期待していますか？（年齢別集計）

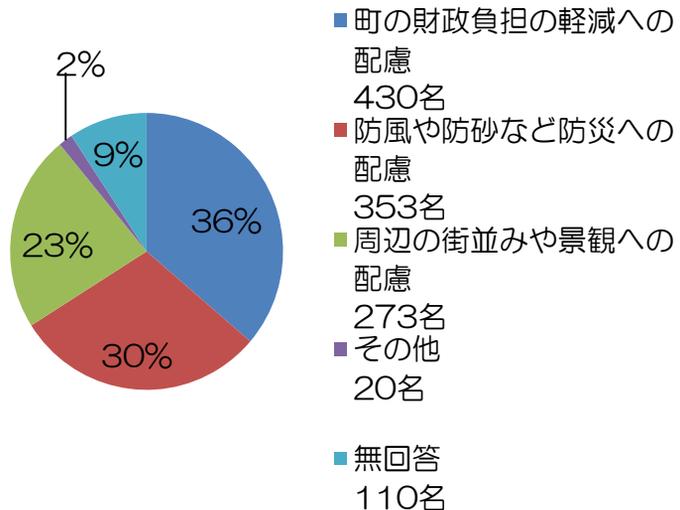
80歳以上



③ 今後、どのような方法で活用すべきとお考えですか？



④ 活用の際、特にどのようなことに留意すべきとお考えですか？



〈問3について〉

○ ①については、「町内外から多くの人を訪れ、賑わいを生み出すような場所（交流）」を望む声が最も多く、次いで「町民の暮らしを便利で豊かにするような場所（公共）」となりました。

○ ②の全体集計結果について、「期待する」と「やや期待する」の合計値でみると、「観光情報発信施設」が最も多く49.5%となっており、次いで「公園や広場」46.9%、「店舗や映画館などの商業・娯楽施設」が42.2%となっています。

○ ②の世代別集計結果について、「期待する」と「やや期待する」の合計値でみると、40歳未満では、共通して「公園や広場」が最も多く期待されています。また、40～79歳は「観光情報発信施設」が、80歳以上は「津波避難タワーなどの防災施設」がそれぞれ最も期待されています。

18歳～29歳など比較的若い世代において、「商業・娯楽施設」を期待する割合が多い傾向がみられました。

○ ③と④については、「役場跡地なので、公共的な活用をすべき」の回答が63%を占めました。

また、活用の際の留意点については、「町の財政負担の軽減への配慮」が36%と最も多く、次いで「防風や防砂などの防災への配慮」が30%、「周辺の街並みや景観への配慮」が23%となっています。

高校生・中学生向けアンケート

高校生

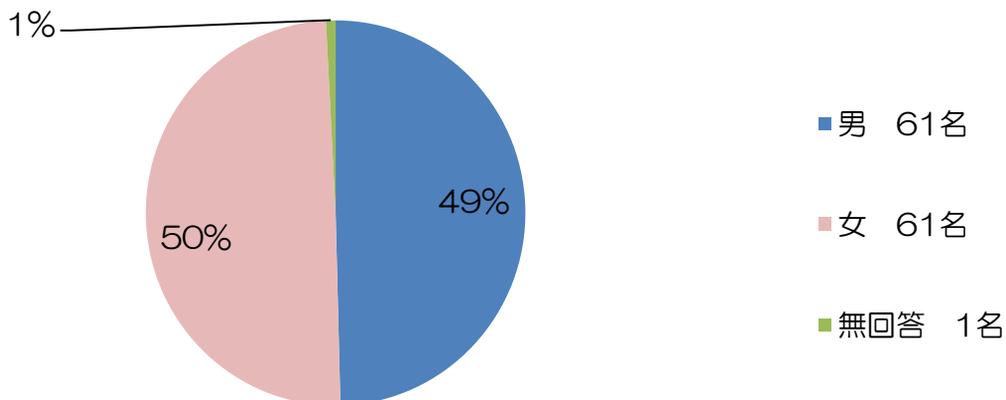
配布枚数 135枚
回答枚数 123枚
回答率 91.1%

中学生

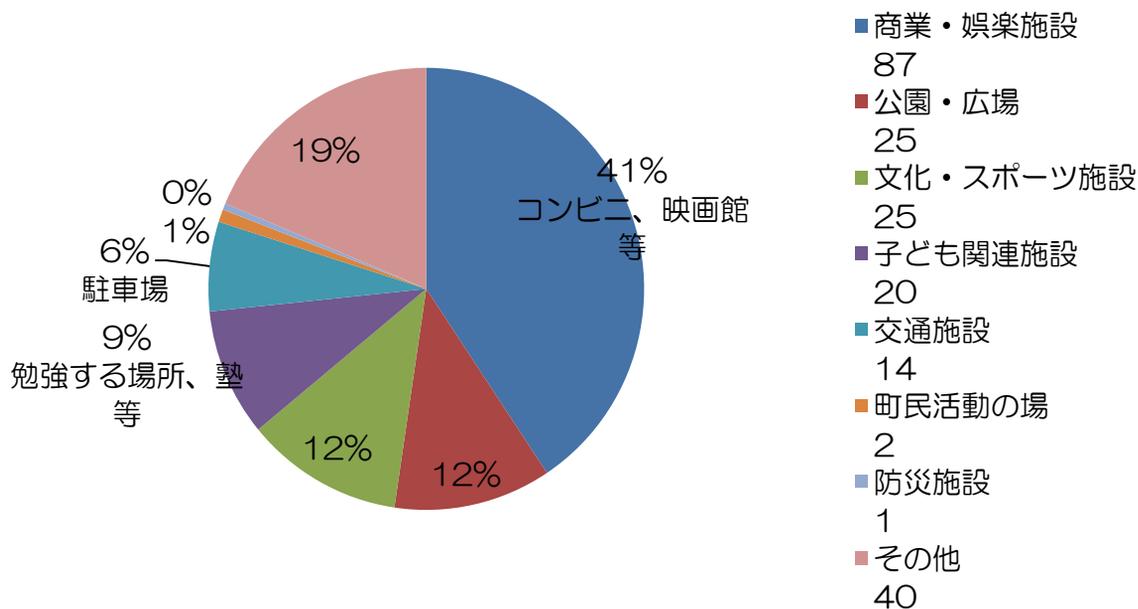
配布枚数 134枚
回答枚数 118枚
回答率 88.1%

高校生アンケート結果

1. あなたの性別は？



2. どのように活用すべきだと思いますか？あなたのご意見を自由にお書き下さい。

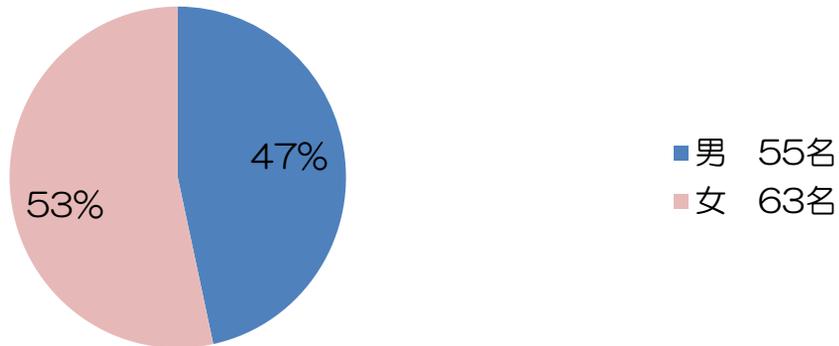


高校生123名から回答をいただきました。

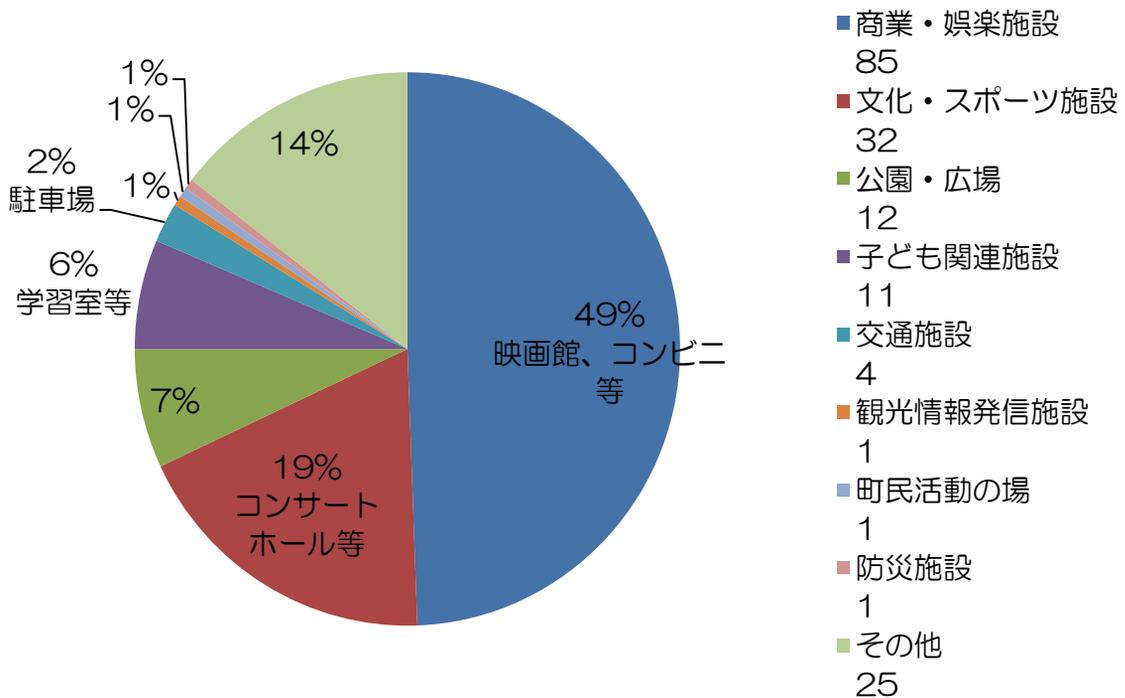
旧庁舎跡地の活用方法については、コンビニ、映画館等の「商業・娯楽施設」が41%と最も多く、次いで「公園・広場」並びに「文化・スポーツ施設」の12%となりました。

中学生アンケート結果

1. あなたの性別は？



2. どのように活用すべきだと思いますか？あなたのご意見を自由にお書き下さい。



高校生118名から回答をいただきました。

旧庁舎跡地の活用方法については、コンビニ、映画館等の「商業・娯楽施設」が49%と最も多く、次いでコンサートホール等の「文化・スポーツ施設」の19%、「公園・広場」の7%となりました。

与論町役場旧庁舎跡地利用に関するアンケート結果まとめ

旧庁舎跡地の活用については、以下のような期待がされています。

	一般町民（18歳以上）	高校生	中学生
1位	観光情報発信施設	商業・娯楽施設	商業・娯楽施設
2位	公園や広場	公園や広場	文化・スポーツ施設
3位	商業・娯楽施設	文化・スポーツ施設	公園や広場

○ 一般町民アンケートではどの世代においても、「観光情報発信施設」、「公園や広場」が広く期待されているようです。

特に40歳未満では「公園や広場」の期待が多く、40歳以上では「観光情報発信施設」が最も多く期待される結果となりました。

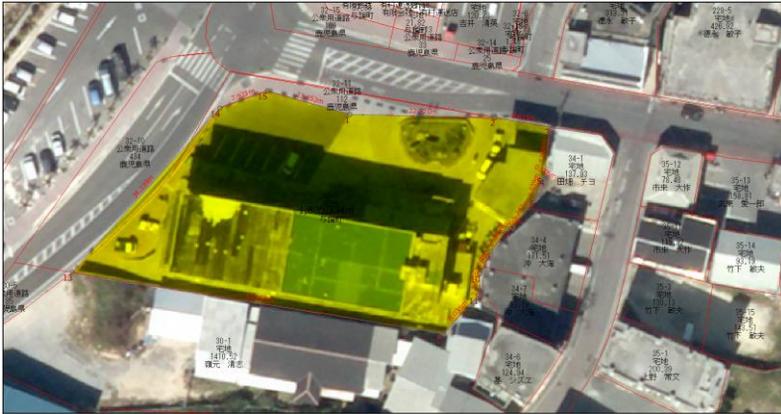
○ 活用の際には、町内外から多くの人を訪れ、賑わいを生み出すような場所（交流）として公共的な活用を望む声が多く、町財政への配慮が最も重要視されているようです。

○ 「商業・娯楽施設」は特に中学生・高校生及び18～39歳の比較的若い世代において、期待されているようです。

4. 旧庁舎跡地並びに本町の現状について

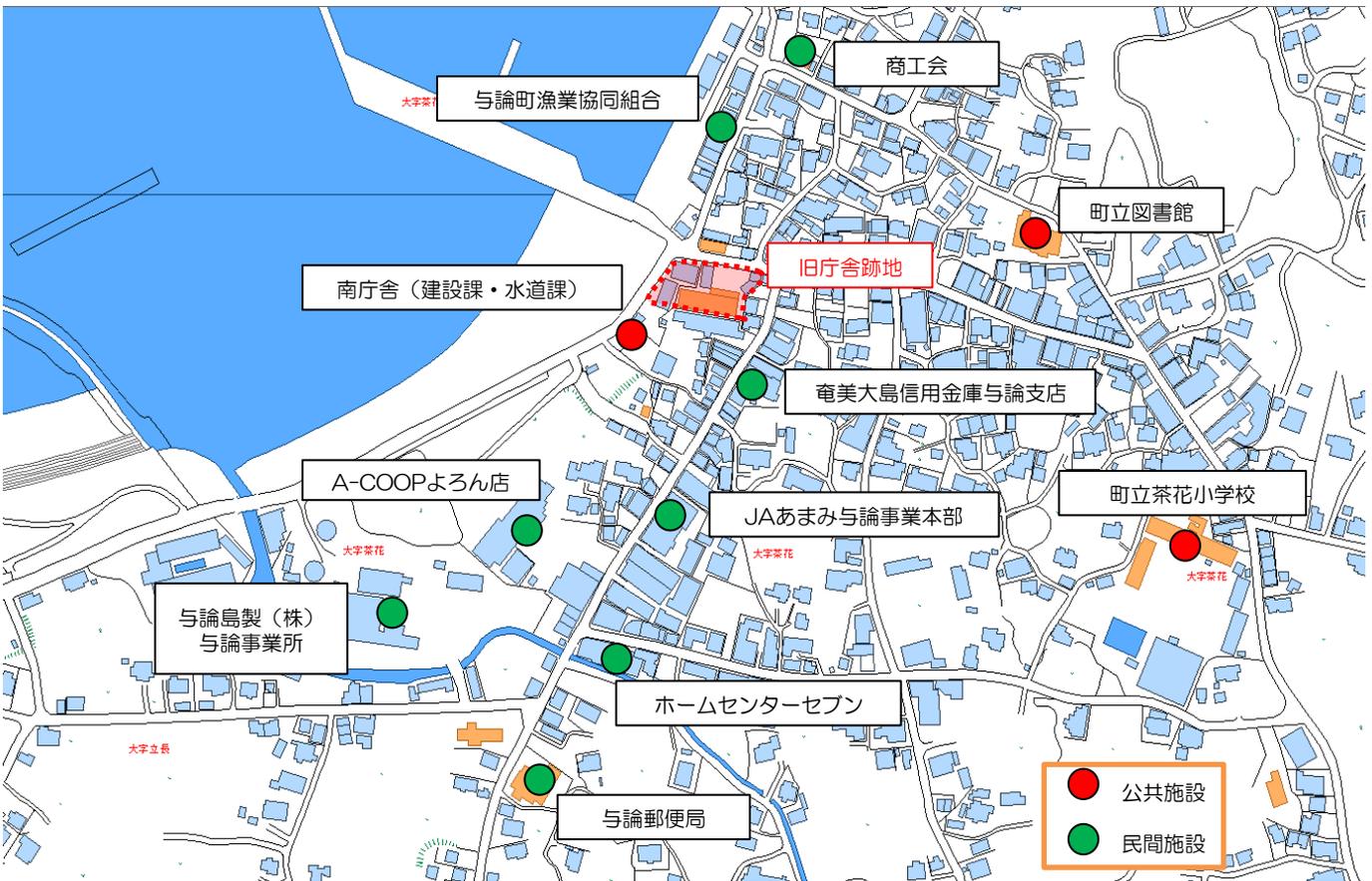
- (1) 敷地概要
- (2) 周辺の状況
- (3) 本町の現状（人口推移等）
- (4) 与論町公共施設等総合管理計画抜粋

(1) 敷地概要



所在地	鹿児島県大島郡与論町大字茶花32番地1
敷地面積	1,781.61㎡
外周	約184m
用途地域	対象外
都市計画区域	対象外
海拔	4.7m

(2) 周辺の状況



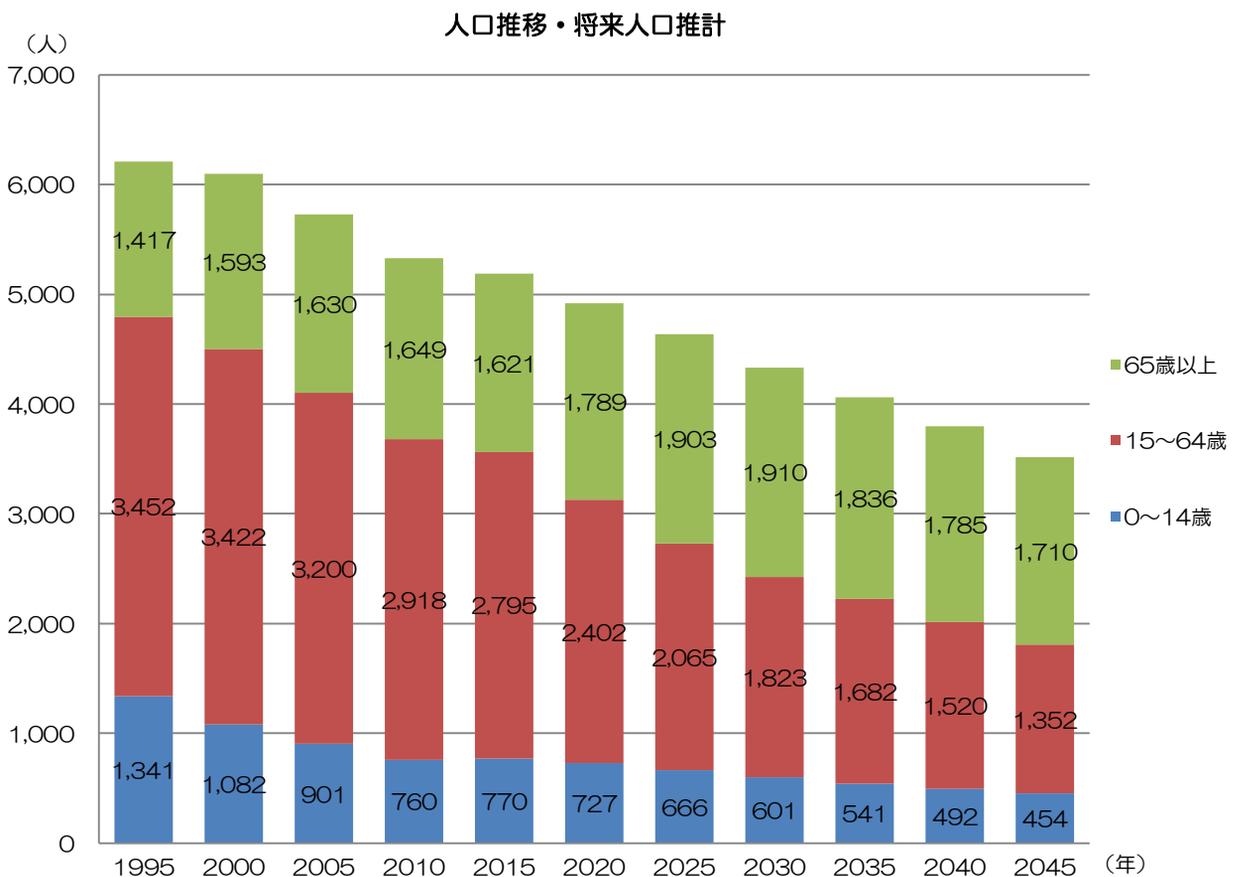
旧庁舎跡地は本町で最も人口が集中する茶花市街地にあり、周辺には郵便局や金融機関、スーパー等の町民の生活に身近な民間施設が集中しています。

(3) 本町の現状（人口推移等）

(1) 人口推移・将来人口推計

本町の人口は減少傾向にあり、1995年の人口は6,210人となっていました。2015年には5,186人となり、20年でおよそ16.5%減少しました。また、国立社会保障・人口問題研究所による将来人口推計では、2045年における本町の人口は3,516人となり、2015年からの30年間でおよそ32.2%の減少が予想されています。

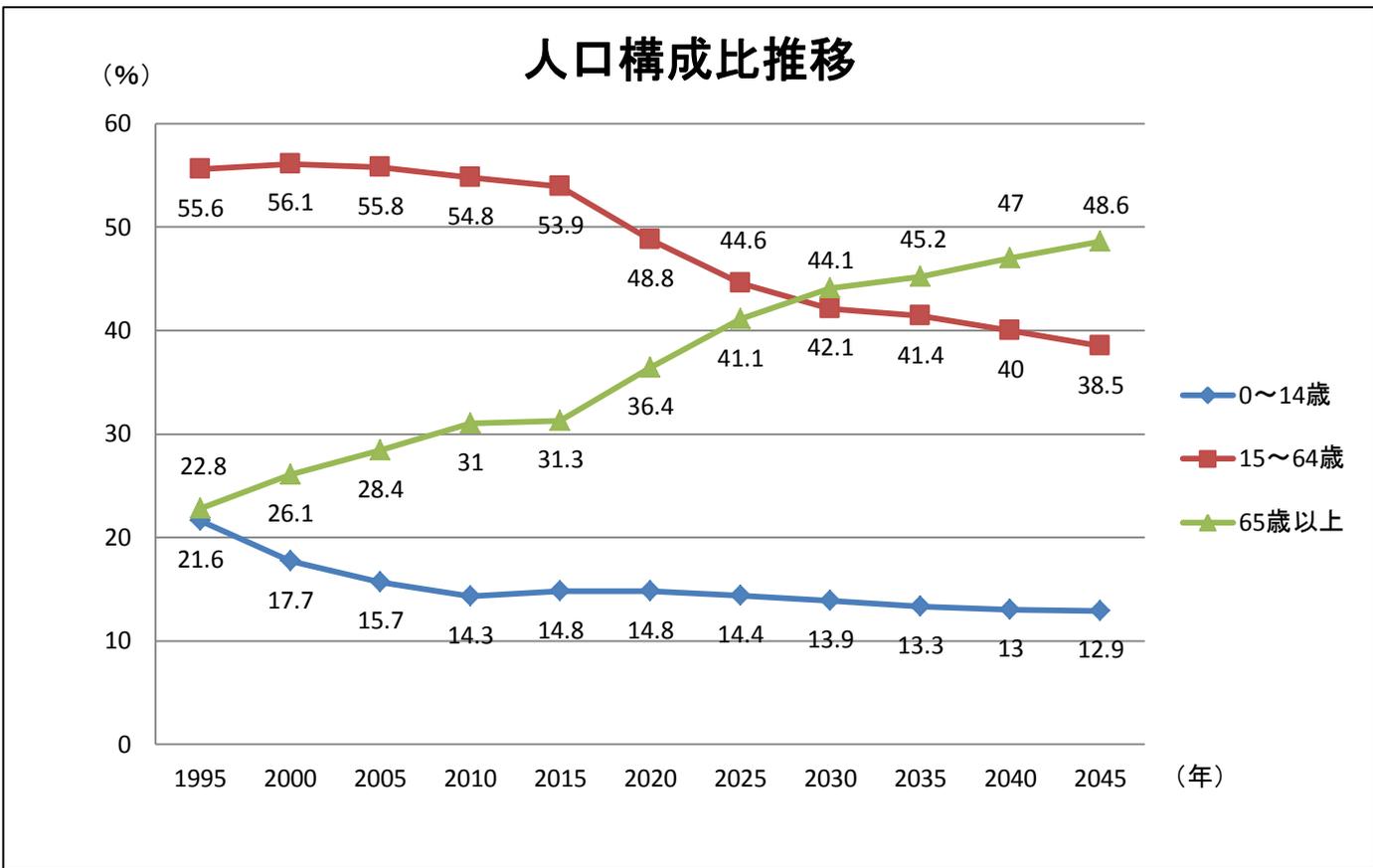
年齢区分別の人口を見ると、65歳以上の人口は、ピークの2030年には1,910人に達し、1995年からの35年間で34.8%増加する予想に対し、15～64歳及び0～14歳の人口はそれぞれ47.2%、55.1%の減少が予想されています。



資料：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所
(2020年以降は推計値)

人口構成比を見ると、15～64歳の人口は1995年には55%を占めていましたが、2015年には53.9%に低下し、2045年には38.5%まで低下する見込みとなっています。また、0～14歳の人口についても、1995年から2015年の20年で6.8%減少し、2045年には12.9%まで減少する見込みとなっています。

一方、65歳以上の人口は1995年には22.8%でしたが、2015年には31.3%と20年で8.5%増加し、2045年には48.6%に達する見込みとなっています。



資料：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所
(2020年以降は推計値)

(4) 与論町公共施設等総合管理計画抜粋

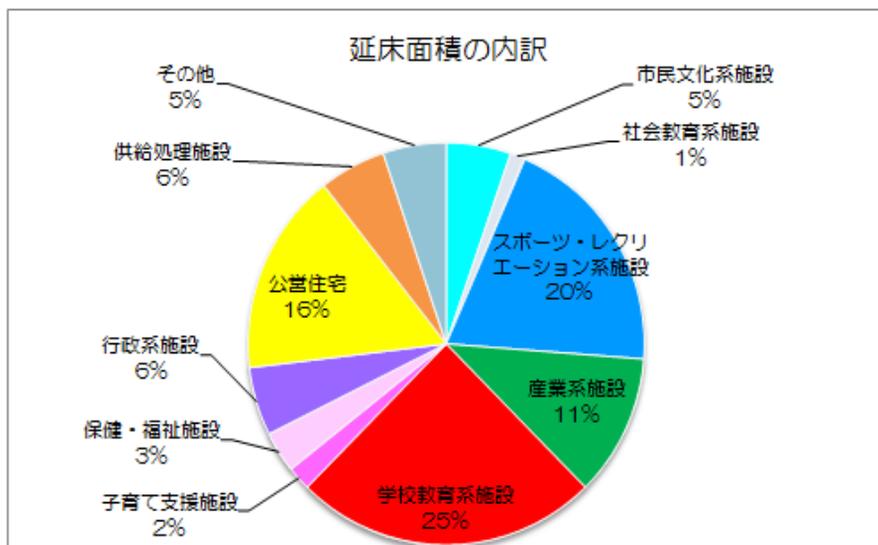
建物系公共施設

(1) 建物系公共施設の数量

本町においては、88施設、55,952㎡の建物系公共施設を保有しています。学校教育系施設（25%）、スポーツ・レクリエーション系施設（20%）、公営住宅（16%）、といった施設で保有面積が多くなっています。

【施設の数量】

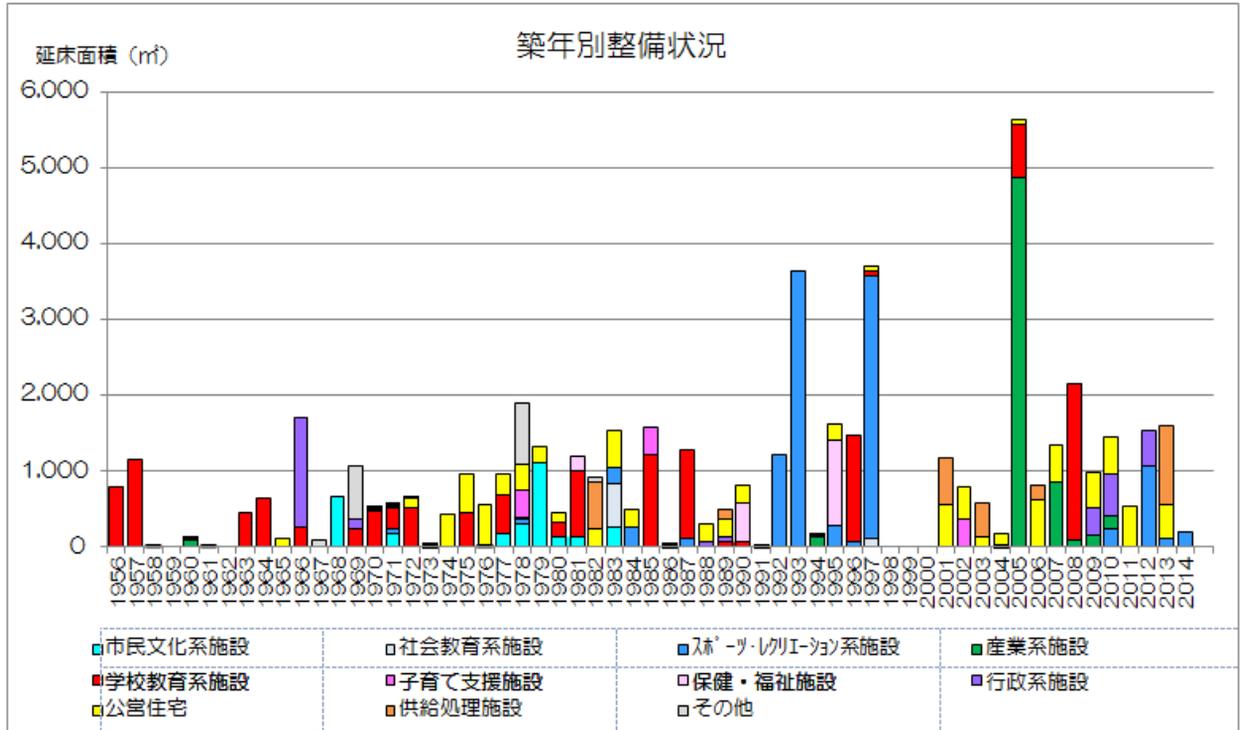
大分類	施設数	延床面積 (㎡)
市民文化系施設	10	2,947
社会教育系施設	2	689
スポーツ・レクリエーション系施設	10	11,026
産業系施設	6	6,393
学校教育系施設	5	13,850
子育て支援施設	3	1,095
保健・福祉施設	3	1,838
行政系施設	5	3,072
公営住宅	15	9,118
供給処理施設	4	3,037
その他	25	2,886
総計	88	55,952



資料：与論町公共施設等総合管理計画（計画期間 2015年度～2024年度）

建物系公共施設の築年別整備状況

建物系公共施設の建築年別の整備状況をみると、現存している元も建築年の古い建物は1956（昭和31）年度に建築された学校教育系の建物で、その後1966（昭和41）年度に行政系施設（役場庁舎）が建築され、その後、1960年代後半から1990年代では、市民文化系施設（公民館等）、福祉系施設、社会教育系施設（図書館）、スポーツ・レクリエーション系施設などの住民の文化や福祉の向上に力が注がれ、近年は産業系施設や供給処理施設の建設が進められてきたこと、老朽化した学校施設や公営住宅の建替えが進められていることがわかります。

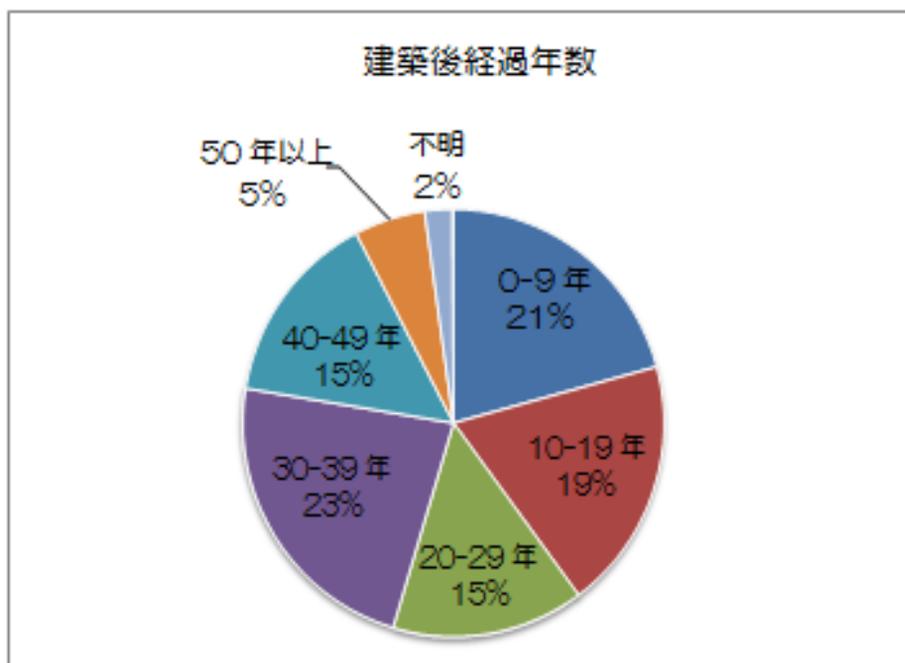
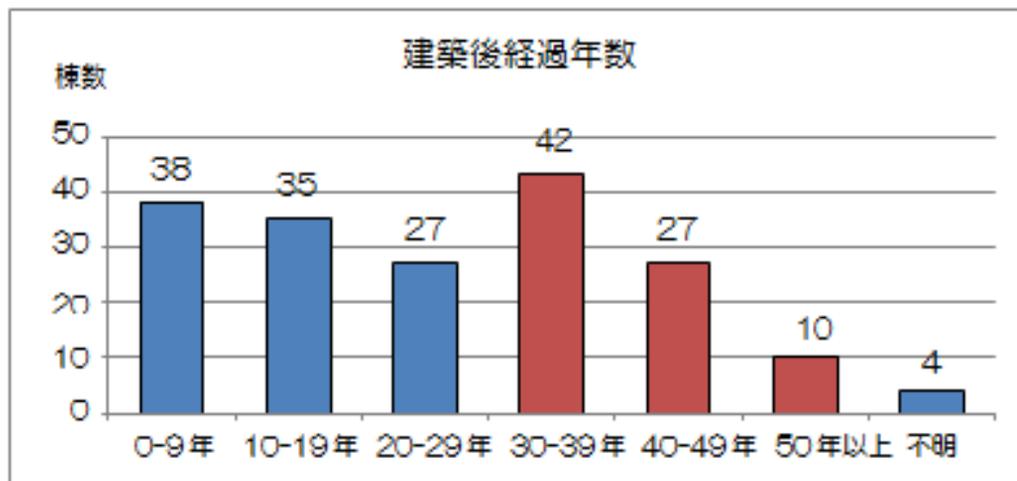


資料：与論町公共施設等総合管理計画（計画期間 2015年度～2024年度）

建物系公共施設の老朽化状況

建築後の経過年数

建物については、一般的に建築後30年が老朽化判定のひとつの目安となっています。本町の建物184棟のうち、建築後30年から39年経過している建物が最も多く、建築後30年以上経過している建物は80棟あり、全体の約4割を超えています。建築後30年以上経過している建物については、改修の必要性および計画、耐震化・長寿命化等の対応などの対策とそれにかかる経費と、その費用が発生するタイミングを把握し、今後の方針について決定する必要があります。

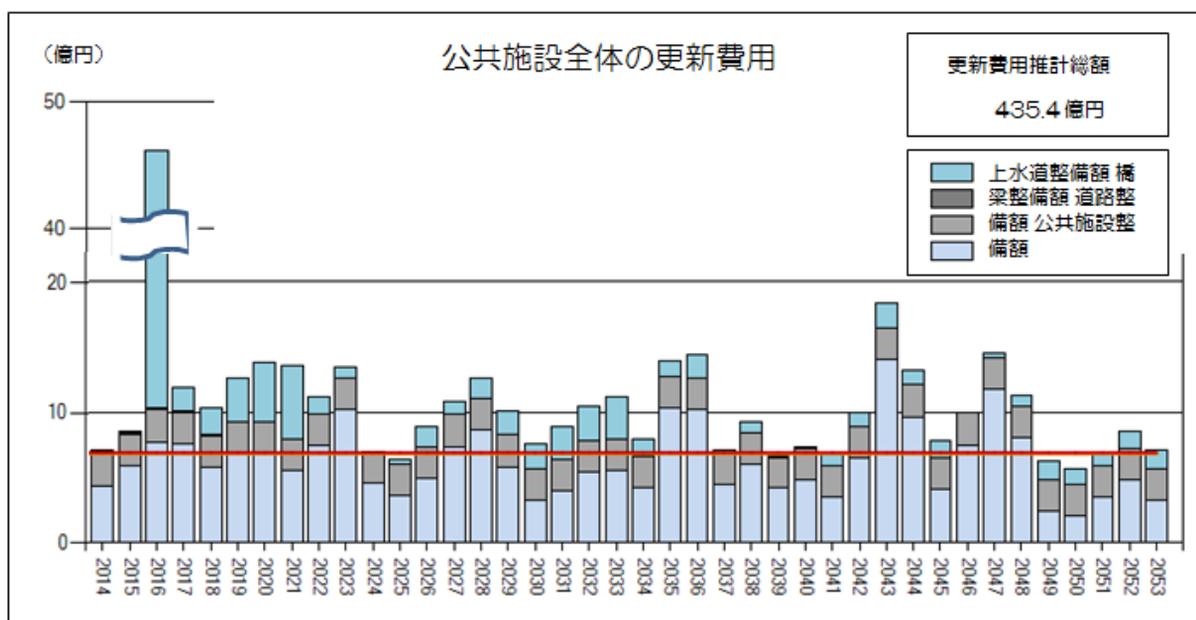
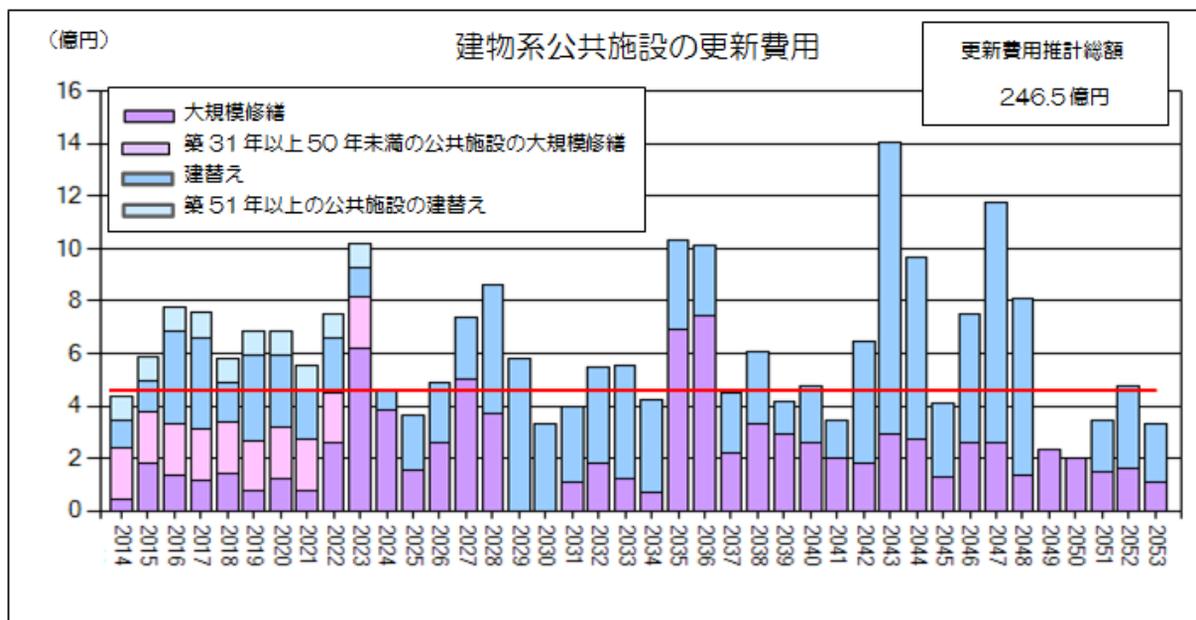


資料：与論町公共施設等総合管理計画（計画期間 2015年度～2024年度）

将来の更新費用の見通し

(1) 更新費用推計

本町が所有する公共施設について、すべて大規模改修を実施し現状規模のまま建て替えを行った場合にかかる更新費用について試算を行いました。建物系公共施設では、今後40年間で246.5億円（年平均6.2億円）かかるという推計結果になりました。建物系、土木系、企業会計すべての公共施設では、今後40年間で435.4億円（年平均10.9億円）かかるという結果になりました。



資料：与論町公共施設等総合管理計画（計画期間 2015年度～2024年度）

与論町公共施設等総合管理計画 基本方針

本町においては、施設の老朽化、住民ニーズの変化、財源の不足といった課題に直面しています。住民の安全を確保し、福祉の向上を実現していくために、財源の確保が最重要課題となります。今後、収入が増えることは見込めないため、公共施設の維持管理・公共サービスの提供にかかっているコスト、将来かかるであろうコストの削減をすることで必要な財源に充てていく、それ以外の手段はありません。将来の財政負担の軽減・平準化していくために、総合的・長期的な視点で施設のマネジメントを行っていくことが重要となります。

公共施設等の総合かつ計画的な管理を推進していくための基本方針について、以下のとおり定めます。

① 保有総量の縮小による将来更新負担額の軽減

減らす

現在利用されておらず将来にわたる利活用の見込みが低い施設については廃止の決断をします。廃止となった施設については、積極的な売却・除却等を行います。利用状況の検証や施設間の調整等を図り、施設の統合・複合化を推進します。

増やさない

新規施設の建設や施設の更新等が必要となった場合、まず既存施設の有効利用（機能移転、複合化、用途変更等）について検討します。将来的な維持管理コストの試算を必ず実施したうえで判断をします。

② 長寿命化の推進によるライフサイクルコストの低減

長く使う

今後維持していく施設については、計画的な点検や修繕等により、予防保全型の維持管理を実施し、施設の長寿命化を図ります。現在の建替えのタイミングを50年から70年に延ばす。

③ 施設管理の効率化によるコスト削減

無駄を省く

今後維持していく施設の管理に当たっては、民間委託の推進や指定管理者制度の導入などの民間ノウハウを活用する取組を推進しつつ、PFI/PPPなど、民間の資本、経営能力及び技術力を活用した施設管理の効率化やサービスの向上等について検討を行います。

資料：与論町公共施設等総合管理計画（計画期間 2015年度～2024年度）